

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 名古屋大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-I))

修士課程国際共同大学院の創成を目指す先駆的日米協働教育プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

我が国の工学系修士課程学生に国際的なレベルの高い教育に接する機会を与えて、英語力の増強や研究意欲の向上、世界的な視点からの研究課題の提案力の養成を実現する。また、新たな国際履修モデルの提案により、修業年限、就職活動などに影響を与えることなく、世界展開力を備えた若手研究者・技術者を育成する。

【構想の概要】

修士課程国際共同大学院の創成を目指し、名古屋大学大学院工学研究科と米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)およびミシガン大学大学院工学研究科が国際協働教育を実施する。大学院修士課程の学生交換留学を推進し、日米の両地で同時に実施する国際・学際教育プログラムを構築することにより、国際共同大学院の創成基礎を構築する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

日本の「ものづくり」の中心に立地する名古屋大学の特長を活かした魅力ある修士課程国際協働教育を実施する。UCLA及びミシガン大学との緊密な連携により、プログラム内の大学間の単位相互認定および成績管理・学位授与の共同実施を図る。また、本プログラムを通して日米各研究チーム間の共同研究を促進し、各分野の世界に発信できる先端研究拠点を形成する。

○ 短期(夏季)交流コース(2ヶ月~3ヶ月)

派遣:J1(訪問研究者)ビザを取得しアメリカの大学で研究インターンシップを行う。名古屋大学から4単位を付与する。

受入:UCLAおよびミシガン大学の大学院生を受け入れ、研究インターンシップ、関連講義の聴講、自動車工場見学等を行う。名古屋大学から2~3単位を付与する。この単位は、ミシガン大学大学院修士課程学生に対しては、課程修了に必要な単位として互換される。

○ 中長期交流コース(6ヶ月~12ヶ月)

派遣:アメリカ大学に学生を派遣し、論文等成果発表につながる本格的な研究を行う。共同施設の利用など米国の特色ある充実した教育支援を受ける。名古屋大学から2~6単位を付与する。

受入:名古屋大教員による研究指導、研究施設の共同利用など、名古屋大学の充実した研究支援を受ける。短期コースと同様に3単位を付与する。



〈ミシガン大学生と共に〉



〈受入オリエンテーション〉

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ものづくり実習と研究発表ワークショップ〉



○ 平成27年度

派遣:短期コースで(夏季休暇中)5名、中期コース(8月から翌年1月)で11名の大学院工学研究科学生をミシガン大学・UCLAに派遣し、研究インターンシップや授業の聴講を行った。

受入:ミシガン大学・UCLAから過去最高の23名の学生を約3ヶ月間受け入れ、研究インターンシップ、生産工学に関連する講義の聴講、小型エンジンの分解・組立実習、自動車工場見学、日本語講義を行った。

教員招聘とプログラムの継続:プログラム発展と大学間連携強化のために、ミシガン大学から教授を1か月間招聘した。また名古屋大学教員がミシガン大学、UCLAを訪問し、補助金終了後のH28年度以降の本プログラムの継続で合意した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

5年間の交流コース及びワークショップを通じて、ほぼ当初予定(200名)通りの計176名の大学院学生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

短中期コースを通じて、当初予定(70名)通りの計70名の学生を受け入れた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 派遣

派遣学生が学業に専念できるように、受入大学でコーディネータ教員から様々な面での支援を受けている。事前に英語指導による語学力強化を行っている。

○ 受入

指導教員の配置、TA等の配置、宿舍の借り上げ、日本語授業などを通して支援している。また、現地説明会やオンライン説明会を行い、プログラムを宣伝している。



〈UCLAでのプログラム説明会〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ プロジェクトHPを通しての情報発信

プログラム活動状況を随時プログラムホームページで公開している。HP: <http://www.jucep.engg.nagoya-u.ac.jp>

○ 研究成果発表

得られた研究成果を国際会議や学術論文発表することで、プログラムの持続的発展を図っている。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	37	50	51	22	16
学生の受入	0	10	18	19	23